

阿部正右

あべ・まさすけ

備後福山藩藩主(第3代)

経歴

生: 享保9年(1724年)11月29日、江戸生まれ 《『諸家譜』では享保8年》

没: 明和6年(1769年)7月12日没、享年46歳、江戸浅草西福寺に葬る、のち谷中墓所へ改葬

元文3年(1738年)	14歳	伊予守
寛延元年(1748年)11月19日	24歳	藩主就任
宝暦2年(1752年)～宝暦10年(1760年)	29～36歳	奏者番
宝暦6年(1756年)～宝暦10年(1760年)	32～36歳	寺社奉行
宝暦10年(1760年)	36歳	侍従
宝暦10年(1760年)	36歳	従四位下
宝暦10年(1760年)～明和元年(1764年)	36～40歳	京都所司代
明和元年(1764年)～明和2年(1765年)	40～41歳	西丸老中
明和2年(1765年)～明和6年(1769年)	41～45歳	老中
明和6年(1769年)7月12日	45歳	死去、藩主退任(在任20年9ヶ月)

生い立ちと学業、業績

称は正治(まさはる)、富之助。

阿部正右は、享保9年第2代藩主阿部正福の次男として江戸藩邸で生れた。

元文3年(1738年)従五位下、伊予守に任官し、寛延元年(1748年)25歳で10万石を襲封した。

その後、幕閣への道を歩みはじめ、29歳で奏者番に補任されてから同職9年、京都所司代4年、老中(西の丸・本丸)5年と江戸あるいは京都に居住して栄進を続けたので、藩政は国元の重臣に任せる政治体制で臨まざるをえなかった。

藩主在任期間は20年9ヶ月、そのうち幕府の要職には17年3ヶ月に及んだ。

正右の藩主在任中の主な課題は、前代と同様に藩財政を逼迫状態から、いかに脱出させるかであった。

そのために藩札を濫発(享保・寛延)するが、かえって藩内の流通市場を混乱に陥れ、藩の信用を失墜させるだけだった。

さらに藩主の幕閣就任による江戸入用の捻出に宝暦3年(1753年)領内郡中へ250貫、福山城下・鞆両町に100貫、合計350貫の御用銀を賦課した。

このため、宝暦の百姓一揆が勃発し、庄屋宅をつぎつぎと打ちこわす騒動となり、領内農民の反撃にあつて、藩府は政策を撤回せざるをえないこととなった。

そうすると、藩は城下・在町の特権商人との結び付きを深め、商業・流通統制による財政の補填策を画策した。

それは、特産などに関わる特権を許した御用達商人などから「御口入銀」と称する強制的な借金をしたほか、豊表・綿・塩・煙草などの特産品から運上銀の増収を図った。

この外、宝暦6年(宝暦銀札)、明和元年(明和銀札)に再度、藩札を発行したり、藩内の綱紀粛正など緊縮政策を図ったが、大きな効果を収めなかった。

こうした状況のなかで藩主正右は明和6年(1769年)7月12日、46歳の若さで老中在職のまままで死去したのである。

この財政難はますます深まり、加えて藩政の綱紀も「万事だらだらと成勝ちで、日用は多く相成、ぶらぶらといたし候」といわれる程ゆるんでいた。

その難題はつぎの第4代阿部正倫に引継がれることとなった。

西閣院殿楼誉託方練契と諡し、江戸浅草西福寺に葬られた。

現在は東京都台東区谷中に墓所がある。

室は二本松藩主丹羽左京太夫高寛女。(鐘尾光世、歴史資料室学芸員)

誠之館所蔵品展示品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
t0540	阿部正右 差出	「前田大和守宛書簡」	—	—
07271	福山城博物館 編	『福山阿部家展－受け継がれた武家資料－』	福山城博物館	平成27年

出典1:『阿部氏十代展－福山の藩政と教育』、76頁、福山城博物館編刊、平成7年4月8日

出典2:『福山阿部家展－受け継がれた武家資料－』、福山城博物館編刊、平成27年9月19日

出典3:『福山の今昔』、106頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年3月3日更新:肩書●2006年2月17日更新:経歴●2006年6月14日更新:タイトル●2007年10月5日更新:経歴・関連情報●2008年1月23日更新:本文・関連情報削除●2010年3月9日更新:経歴・本文・関連資料●2010年10月7日更新:誠之館所蔵品・展示品●2015年12月7日更新:レイアウト・誠之館所蔵品展示品・出典●